

第2回 利根町小中学校適正配置等調査検討委員会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成30年2月28日（水） 19:00～20:35
2. 場 所 利根町役場5階A会議室
3. 出席委員（10名）

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 会 長 | 岡 賢市 | 副会長 | 川村 啓三 | 委 員 | 中澤 則明 |
| 委 員 | 船川 京子 | 委 員 | 大越 伸江 | 委 員 | 大竹 正人 |
| 委 員 | 花嶋 洋子 | 委 員 | 近藤 敬一 | 委 員 | 仲田 義弘 |
| 委 員 | 川村由紀夫 | | | | |
4. 欠席委員 な し
5. その他出席者 な し
6. 事務局
学校教育課長 寺田 寛, 指導室長 直井 由貴
学校教育課課長補佐 大越 克典
学校教育課課長補佐 河村 明
学校教育課係長 布袋 哲朗, 学校教育課主査 大貫 浩希,
学校教育課主任 坂本 美奈
7. 会議次第
 1. 開会
 2. 会長挨拶
 3. 事務局説明・意見交換
 - (1) 第2回検討委員会資料
 1. 小中学校の適正規模について
 2. 小中学校の適正配置について（通学条件）
 3. 小学校統合による児童数及び学級数（試算）について
 4. 学校の整備状況について
 - (2) 次回の日程について
 4. その他
 5. 閉会

8. 議事

1. 開会

○事務局 ただいまより、第2回利根町小中学校適正配置等調査検討委員会を開催いたします。

2. 会長挨拶

○会 長 きょうは大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

今年、大政奉還からちょうど150年になるんだそうです。大政奉還から3年後の1872年に日本で初めて学制がしかれました。「邑（むら）に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん事を期す」という哲学のもとに日本の教育がスタートいたしました。その後、昭和58年頃、日本の学力は世界のトップに躍り出るくらい高かったんですけども、トップに躍り出るまでは「欧米諸国に追いつけ追い越せ」という合言葉でやってきたんですが、トップに立ったときに「日本は今からどうすればいいんだろうか」という教育に迷いが出てきてしまったんです。その後「ゆとり教育」とかいろいろと中身を変えて現在に至っているわけです。

人口の方はといいますと、1950年の時に日本の人口は約8,000万人だったそうです。現在、2010年には約1億2,000万人でずっと増え続けておりますが、今から80年後の2090年には50年代と同じ8,000万人という極端に人口が減って、子供たちも少なくなっていくと思います。

そういうことから考えますと、小中学校適正配置等調査検討委員会で話し合いをする内容は、少子化にどう対応していくかという非常に難しい段階に来ていると思います。どうか英知を絞っていい意見を出していただきまして、今後の方向がどうあるべきかを検討していただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

3. 事務局説明・意見交換

○事務局 ここからは、会議の進行を岡会長にお願いしたいと思います。

○会 長 それでは、事務局の方から資料の説明をお願いいたします。

○事務局

第2回会議資料の説明

1. 小中学校の適正規模について
 - (1) 学校教育施行規則による国の基準について
 - (2) 茨城県教育委員会の公立小中学校の適正規模について
(指針)
 - (3) 学級数が少ないことによる学校運営上の課題
 - (4) 教職員が少なくなることによる学校運営上の課題
 - (5) 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響
 - (6) 学校規模の標準を下回る場合の対応の目安
(小学校の場合)
 - (7) 年度別児童生徒数及び学級数
2. 小中学校の適正配置について(通学条件)
 - (1) 通学距離について
 - (2) 通学時間について
 - (3) 小中学校の通学区域について
 - (4) 行政区・年齢段階別人口(平成29年4月1日現在)
 - (5) 小中学校位置図
3. 小学校統合による児童数及び学級数(試算)について
4. 学校の整備状況について

【参考資料】

- ・法令等から見た適正規模について
- ・茨城県教育委員会の公立小中学校の適正規模について(指針)
- ・利根町小・中学校の沿革

○会長 ありがとうございました。細かく説明をしていただきましたけれども、この説明等に関して、まず、ご質問等がありましたら、最初にお受けしたいと思います。
質問がありましたらお願いいたします。

資料が事前に渡っておりましたので、中身はお読みになったと思いますので、無かったら進めさせていただきたいと思
います。

まず、「小中学校の適正規模について」ということ皆さん
から意見を出していただけたらと思います。

○委員 平成22年度に教頭として旧太子堂小学校に勤務しております。1学年2学級ずつの12学級で、357人の児童がいました。35人以上の多い数が2クラスずつあったんです。その頃を振り返ってみますと、その時はなかなか目が行き届かなくて、学力の面でもちょっと低いところもありましたし、生徒指導面でもいろいろな問題がありました。

昨年度の平成28年度は同じ2クラスずつなんですが、1クラス20人ちょっとの数で、1学級の人数が少なくなってきました。教員のほうも非常に目が行き届くようになって、子供たちが落ち着いて生活できて、学力も上がってきたということもあります。

今年、1年生が1クラスになってしまい、1クラス35人で教員にとってはかなりハードでして、昔は、45人学級というのもありましたが、今は本当にいろんな子供たちがいる中で、35人を教えるというのは非常に大変だというのがあります。そういう面からいきますと、教える側としては、1クラス当りの人数が少ない方がもちろん言い訳なんです。

適正な規模から考えますと確かに2学級あったほうがクラス替えもありますし、運動会なんかでも子供たちの活気としては、複数学級あったほうがいいのかと思います。

以前、全校児童が100人くらいの学校にもいたことがあったんですが、非常にアットホームで教員の目も行き届いてほとんど問題も無かったんですけども、やはり同じメンバーでずっと行くことによって固定されてしまって交流がうまく出来なくてその点は「かわいそうだな」と感じておりました。なるべく他の学校と交流会を持ったりしながら人間関係を広げるような工夫をした覚えがあります。

ですから、適正規模としましては、あまり少なくなると子供たちの社会性とかを考えると1クラスでは相応しくないのかなと思いますし、2クラスとか3クラスぐらいあったほうが子供たちのことを考えれば活気があるのかなと感じております。

○委員 私は、平成18年の時に新任教頭として最後の旧利根中学校に携わりました。そのときの1学年が1クラスで、その

学年は、小学校のときからずっと1クラスだったんです。高校受験のときに、いままで自分の立ち位置が一緒に仲間と同じ高校には行きたくないということでいろいろな高校を受験した生徒もいました。

部活動では、男子バスケット部の部員が2人しかいなくて大会にも出られず、普段の練習は女子と練習していて、大会前に引退したというのがありました。

翌年の平成19年の時も教頭として統合した利根中学校にいたんですが、活気という意味では非常に活気がありました。ただ弊害ではないんですが、旧新館中学校の生徒の方が多かったので、旧利根中学校の生徒達が劣勢で負けまいとして、いい意味では切磋琢磨なんですけど、統合の時はいろいろありました。ただ、部活動とかは非常に盛り上がりました。

1学年4学級の12学級というのは、今振り返りますと適正といった適正規模だったのかなと思います。来年度は、3クラスずつになりまして、教員の配置もちょっと偏りが出てしまい、男性教員2、女性教員1か男性教員1、女性教員2といった配置になってしまいまして、バランスの面からは男性教員2、女性教員2の4クラスが教員の配置面においても理想かなと思います。

○委員

16ページから18ページの「小学校統合による児童数及び学級数（試算）」を見ていきますと、平成35年度の1校に統合した場合、普通学級児童数391人13クラスでちょうど1クラス30人前後、多いところで6年生の36人ぐらいになります。2校に統合した場合、1学年1クラスというのが平成32年度あたりから目立ってきて、それ以降、年々1クラスが増えいって、低学年で平成33年以降に1クラスになった学年は、卒業するまで1クラスだと思うんです。1クラスということは、クラス替えの経験の無い子供たちが中学校に行って、2つの学校がはじめて1つになるという経験をすると思うんですけども、小学校6年間まったくクラス替えの経験がなく、思春期の入り口くらいの子供たちがいきなり他の学校の生徒と一緒にいるわけで、カルチャーショック的なことはどうなんでしょうか。あん

まり子供たちには影響ないですか。

○委員　　私は、利根中学校と新館中学校が分離して、子供たちが爆発的に増えてきた時に新館中学校に入ったんです。新館中学校は1学年6クラスから8クラスぐらいあって、昔から文間小学校は1学年1学級の学校だったんで、そこへ文間小学校1クラス20何人かが新館中学校に入っていく状況だったんです。その頃は、文間小学校や東文間小学校はそういう環境だったんで、「井の中の蛙」にならないように戸惑ったところもありましたが、学校はすごく活気があって、部活動なんかも沢山あったんで、3年間終わったところから考えるとよかったのかな、楽しかったのかなという思い出があります。

文間小学校や東文間小学校から大きな学校に行くことは、何かしら障害はあるとは思いますが、私の場合は、担任が4年間一緒でしたし、下の学年では6年間一緒だったときもありました。1年から6年まで担任も生徒も一緒に、アットホームで和気あいあいでもそれもいいんでしょうけれども、必要以上に馴れ合いとかそういう部分もあったりしたので、私は大きなところで学校生活を送った方がいいと思います。

○委員　　私も、1学年に11学級あるところにいたんです。その学区の小学校は大体、中規模校だったんですが、1校だけ20人しかいない学校がありました。その子達が11学級の中に割り振られますと1人とか2人とかになって行き場がなくなってしまうんです。学級編制は、その学校の子供たちだけを集めるということは出来ませんので、子供たちが1学期いっぱい、なじめずに小さくなっていたのを覚えています。そのうち2年生あたりになって活気付いてきますとそのときに虐げられたことが一気に爆発して非行の方に走った生徒もいました。これは極端な例ですが、そういうことで非常に苦勞したことがあるんですが、やはりバランスよく学級の中には入っていけるような体制をつくるべきかなと思います。

- 委員 多少は、学級編制時に1人にしないように4人とか複数名いるように調整はするんでしょうけれどもね。
- 委員 現在、文小学校は全クラス1学級30人ぐらいで、1年生から6年生までクラス替えも無く6年間同じクラスメイトと過ごしてきていて、私の娘も今度の4月に5年生になるので、あと2年後にはそれを経験する立場にはなるのですが、クラス替えを経験していない娘が、利根中学校に行くと2クラス、3クラスになった時の状況についていけるかどうなのかなという不安はあります。
- 委員 中学校では、3月に新入生のクラス編制会議があるんですが、文小学校の現6年生の女子が少ないんです。男子が多くて女子は10人ちょっとなので、1クラス3人か4人で、でいいのかといったようなことや、人間関係などもあるので、そういった弊害もあります。
- 委員 そうなんです。幼稚園から一緒という子もいますので、9年間ずっと一緒という子もいるんです。そうしてくると、1年生、2年生くらいのときは和気あいあいとしているんですけど、3年生、4年生と少しずつ年齢が10歳近くになってきて思春期に入るかなというぐらいになってくると、女子はちょっとしたいざこざだったり、ちょっとした意見の違いでナイーブな人間関係になったり、そういう問題が起きたりしています。
- 委員 私は、龍ヶ崎市出身で、この間廃校になった北文間小学校出身で、私の時には2クラスあったんですが、愛宕中学校に入った時は7クラスぐらいに分かれてしまって、その子の性格とか、外交的な子、内向的な子いろいろいらっしやると思います。そこで保護者とか親とか先生方の心配も尽きないとは思いますが、社会に出て行く準備段階だと思うので、社会に出て行ったときにその子の経験としていろんな子とお付き合いをして、その中で自分がどういう振舞い方をするのかとか、生きていく術というのを身につけていく準備段階なのかなという気もしますので、社会性を養う上

では、そういう経験もあってもいいのかなと個人的には思います。

○委員 私たちの世代は何クラスもあったときで、そのときに比べると本当に少子化で、子供の人数も少なくなってきた、うちの子供たちも文小学校出身なんですけれども、ずっと1学年1学級できて、利根中学校も1学年4学級から1学年3学級に減ってきていて、先ほどから委員の皆さんがおっしゃっているように適正な学校規模というのはすごく大事なのかなと思いました。

平成35年には、小学校の児童数がだいぶ少なくなるというデータなどを見ていて、クラス替えも無いまま6年間を終えて、中学校に上がった時に、正直、今の子供たちは内面的にすごく弱いので、本当に孤独になってしまって、周りに馴染めなくなることが心配です。

○委員 5ページの「年度別児童生徒数及び学級数」を見ると、確かに文小学校は、ずっと1クラスなんですよね。16ページの「小学校統合による児童数及び学級数（試算）」に2校に統合した場合と1校に統合した場合という具体的な例が示されていると思います。平成35年度の1校に統合した場合を見ますと、まあ望ましい形に近づいているのかなという印象も持ちました。2校に統合した場合ですと、ここに行くまでに次の課題に追いかけて進んでいくような印象を持ちましたので、先ほどのような質問をさせていただきました。

具体的に人間関係の問題の課題解決にもクラス替えは必要であるということがよく理解できたので、総合的な課題はあるとは思いますが、この辺を目指すっていうのは、ひとつの目安ではあるのかなという印象を持ちました。

○委員 おっしゃるとおり、先を見通して適正な規模に近づけて、お互いに連携していくことが大事なのかなと思います。

○委員 私は、教員の力量向上の観点から話したいと思いますが、学校運営上の課題にも載っておりましたけれども、

小規模校では、当然先生方の配置が少ないわけですので、かといって大規模校、小規模校全てに会議とか研修の通知はきますので、それぞれ参加するとなると、大規模校は当然多くの教員がいますので、参加させるのは容易だと思うんですが、小規模校になってきますと教育委員会の会議研修等は出ざるを得ないんですが、教育関係団体が研修を企画して勉強をしましょうといってもそういった学校では出せないんです。

先生方の力量向上もなかなか思うように行かない。当然、仕事も幾つかの仕事を抱えていますので、そうなってくると、ひとつひとつの仕事がおざなりになってしまうを得ないところが出てきます。

そういった点から考えますと、利根町でも学力の向上とか学習意欲の向上、当然のことだと思うんですが、それを狙うのであれば皆さんから出ていますけれども統合の形がいいのかなと先生方の力も付けていただいて、学校の力を高めていくというそういった方向に向かった方がいいのではないかなというふうに思います。

○会 長 子供たちに社会性を身に付けてあげるような場所、あるいは場面がほとんど無くなってきている。そこで子供たちを育てなければいけないとなると、出来るだけ学校というひとつの中で、大勢の子供たちの中で、認め合うこと、あるいは競い合うことも大事ですし、中には喧嘩することもあるかも知れません。そういう間柄が出来ることが、そういう経験があれば、ちょっとしたいじめから自殺といったことも無いのかなと思います。そういうことを考えると規模的には中規模の学校というのは非常に大事なのかなということを私も思いますし、皆さんの意見を聴いてそれを強く感じました。

そういうことで、時間もきましたので、ある程度、私たちの方向を出したいと思います。間違っていたら反対意見を出していただけたらと思います。

当面は、中規模ではない適正規模ではない適正規模より大きいですがけれども、平成35年ぐらいになると適正規模といわれる規模になるので、利根町の中で小学校を一つの

学校に統合していく方向で提言してよろしいでしょうか。

○委員 一つに統合するという方向性につきましては、異論は無いんですけども、時期の部分にまで今回は踏み込みませんか。そこをちょっとお聞きしたいんですけども。

○会長 3年後には適正規模になってしまいますので、出来たら早く統合してほしいと思っています。平成30年度は小中学校適正配置等について議論をしている時期、平成31年度は、議論が終わって準備の時期、具体的に動くのは平成33年度になると思うんです。

○委員 平成33年度にひとつの学校にするというそこを目標にして今年度からスタートするということですか。平成33年4月には、ひとつの小学校としてスタートをきるということですか。

○会長 目安としてね。ただ、そこに行くのには、例えばひとつにまとめるには校舎の問題もあります。それからAという校舎に集めるとしたら、B、Cの持っている校舎の地域性というのがあると思うんです。

○委員 平成33年度だと15クラスで、15の普通教室を備えている小学校っていうところでは、布川小学校と文小学校ですけれども、特別支援学級もありますよね。あと今、法律も変わって、1年生から6年生まで学童保育も受け入れることになっていますよね。そうすると学童保育の対応なんかはどのようなお考えなんですか。

○事務局 学童保育の方も大きな問題でして、布川小学校のほうには一昨年に新しく建てておりますが、これが統合した時にすべての児童を受け入れられるかという問題もあると思います。文小学校の場合ですと前の校舎と後ろの校舎がありまして、全部あわせると23教室という形になるんですが、特別支援学級を含めて児童クラブの人数を受け入れられるかどうか、その辺もちょっと検討する必要があると思

いますが、1校に統合するという方向になれば、今後そういう課題をひとつひとつクリアしていくために資料を提出したいと考えています。

○委員 選択肢としては、3校を2校にする場合と3校を1校にする場合の例を挙げて下さったということは、こういった形の選択肢で検討していくということで、ひとつの学校にするということに関しては、先ほども申し上げたとおり異論はありません。通学の一番遠いお子さんのことを考えたらスクールバスとかいろいろ配慮をしてメリット、デメリット両方見えてくるかなと思います。ただ、今の学童保育などの部分を含めて、時期を決めるとしたらもう少し議論を重ねていかないと見えてこない課題もあるのではないかなという印象も持っているので、できたら時間的な制約もあると思うので、平成33年度という形で教育委員会に答申されるのは反対です。

○会長 時期の部分までということだったので、案として平成33年度あたりが適当ではないかなと出させていただきましたが、実際には準備ができないかもしれません。

○委員 特別支援学級のお子さんも顕在か潜在か両方いると思うので、どんな風に現場が展開していくかというのも不透明な部分もあるのではないかなと感じています。その部分も含めてもう少し丁寧に議論を重ねていかないと時期はちょっとこの平成33年というのが気になりましたもので意見を申し上げました。

○会長 いずれにしても、きょうの話し合いの中ではひとつに統合してみようという方向には変わりありませんね。

○委員 賛成です。

○委員 私も、結果的にどうなるかわからないんですけども、先ほど申し上げたとおり大勢の中で学んだ方がいいと思っています。

昔は自分の足で学校に通っていました。今は、文間小学校のなので、子供も自分で通っています。自分としては、やはり自分の足で通ってもらいたいという意見です。雨が降っても、風が吹いても自分で歩くべきだと厳しいのかもしれませんがそのように思っています。統合によってバス通学になっている区域も出ておりますので、それに伴う弊害、子供たちの体力面の低下などその辺の意見を聴きたいんですけども。

○会 長 小学生の通学で一番ストレスが溜まるか溜まらないかの目安が35分で、それを超えるとストレスが溜まってくる。中学生は60分だそうです。

○委 員 布川小学校では、10名ほどスクールバスで通学しています。少子化になってくると女の子だけの班になったりしますと、保護者からすると心配で、本来、八幡台はスクールバスの区域ではなかったんですけども、女の子だけなので布川神社の薄暗い場所を通して通わせるのは心配だということで、スクールバスに乗ってもらっています。

先ほどの体力面につきましては、スクールバスだから低下しているということはありませんが、保護者の方からはもう少し歩かせたいなんて意見もありますし、女の子だから心配でスクールバスにしてほしいなんて意見もあります。

○委 員 子供たちも非常に弱くなっていますので、歩ける範囲か歩けない範囲があると思います。

○委 員 統合した場合には、スクールバスとかの運行ってどうなるんですか。その地区その地区によって違うんですか。

○委 員 例えば、布川小学校に統合する答申を出した場合には、その条件としては、文間小学校区、文小学校区の子供たちは歩いてはいけないのでスクールバスの運行をお願いすることになると思います。

○会 長 統合をするかしないかという方向性をきょうの話し合い

の中で決めたいと思います。

ひとつに統合が必要だという視点で、1校に統合する方向賛成ということによろしいでしょうか。

[全委員賛成]

次回の日程について

○事務局 次回の日程
平成30年3月29日（木） 13時30分から

4. その他 な し

5. 閉会

○事務局 それでは、第2回利根町小中学校適正配置等調査検討委員会を開会いたします。
本日は、誠に有難うございました。